

教育民生常任委員会 摘 録

1. 開催日 令和8年3月18日(水) 第2委員会室
2. 出席委員 前田智永委員長 國利知史副委員長 近藤久子 岡野茂 青山学 松森潤平
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 橋本和憲議事事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 傍聴者 なし
7. 会議に付した事件
 - 1 管内視察のまとめ
 - 2 所管事務調査及び閉会中の継続調査について
 - 3 その他

午後1時42分 開 議

○前田智永委員長 教育民生常任委員会を開会いたします。本日の出席委員は全員ですので、直ちに開始いたします。本日の会議において、傍聴、写真撮影、録音、録画を許可しています。

1 管内視察のまとめ

○前田智永委員長 それでは早速、協議事項に入りたいと思います。本日は、先般伺いました比和小学校、比和中学校、板橋小学校の管内視察、それから、別日ではありましたが庄原学校給食共同調理場の管内視察にも行かせていただきました。その辺りのことを、皆さん個人で報告書を出していただいているのですが、いま一度、共有も含めて皆さんから様々な御意見を伺いたいと思います。お一人ずつ発言をお願いいたします。國利副委員長。

○國利知史副委員長 比和小学校、比和中学校、板橋小学校を視察する中で、小規模校とある程度大きな学校を見た印象としては、小規模校に関しては、複式であったり、1人で授業を受けておられたりして、複式は丁寧な指導ができたり、1人のところもそうですが、分かるまでじっくりできる反面、社会性の部分では、特に中学生は、ひょっとしたらもうこのまま社会に出ていく一歩前の段階で1人というのはなかなかしんどいなという印象を受けました。板橋小学校に関しては、ある程度大きな規模の学校ということで、人数が多いからかもしれませんが、にぎやかな感じ、元気な感じ。本当ににぎやかな学校という印象を受けました。どちらがいい悪いではありませんが、小規模のところは学力をつけるためにじっくり勉強できる面もある。大きな学校であればみんなと協力して1つのことにチャレンジしていく面もあるので、どちらがどうだという結論にはまだ至りませんが、そういった特徴を生かした教育をしていければいいのかなとは思いました。給食のほうは、非常においしくて、栄養のバランスも非常によく考えられていて、地域の食材もふんだんにといますか、時期によっては多い少ないがあるとは思いますが、地産地消もしっかり考えられたメニューができていのかと思います。それで、私が一番思ったのは、私自身が給食の食材を手配するバイヤーのような仕事をして

いたことがあるので、地産地消率を上げていくのはすごく難しいなということは私も実際に仕事をしていたので思いました。だから、もし今後もっと地産地消率を上げていくということであれば、市内に1人でもいいと思いますが、それぞれの給食調理場に食材を手配できるコーディネーターがいないと、これ以上地産地消率を上げていくのは厳しいのかなという感じは受けました。庄原の給食調理場の視察ではありましたが、周辺のある程度規模が小さいところではもっと地産地消率を高めていくことは可能かなと思いましたが、大きいところではコーディネーターが必要になってくるなという印象を一番受けました。

○前田智永委員長 岡野委員。

○岡野茂委員 比和と板橋ですが、各地域で児童数が激減しているので、今後の学校運営の在り方が課題かなと思いました。参考になった事項としては、現場の状況を実感しないといけないということで小規模と大規模校を視察して、小規模校については、複式学級の授業の進め方の難しさと多数の生徒と関わる機会不足によるコミュニケーション能力の発達の懸念、そして、望むクラブ活動ができないこと。大規模校は、基礎的学力が定着しにくいということと、もう1つは、地域や保護者との連携の難しさがあるのかなと感じました。提言・その他としては、今後、児童生徒数が減少する状況を踏まえて次の取組が必要になるのかなということで、まず1つは、複式教育担当教諭の研修・研究機会の充実と拡大と、小規模校の相互連携の回数をより増やしてクラブ活動、修学旅行、授業等を。もう1つは、大規模校と小規模校があるわけで、庄原市全体での小中学校の児童生徒の交流の強化もしたらいいのかなと思いました。それから、学校給食共同調理場ですが、私は給食に対して問題意識をあまり持っていなかったのですが、松森委員の一般質問で教育長から一緒に食べようと言ってもらって、行かせてもらってよかったなと思っています。児童数が減少する中で、今後の給食運営と食育の展開が課題というか興味があるところです。参考になった事項としては、季節に応じた地域食材を使用する給食の献立を立てて提供されることで、子供たちが楽しみながら地域の理解を深めていることがさすがだなと思いました。もう1つは、地域食材の供給について、地域食材であればどのようなものでもいいというわけにはいかないなと。よく使われる食材については作業しやすい規格があって、時間内に仕上げないといけないので、そういう点で調理しやすい規格の食材が選ばれている点もあるのかなと。それと、学校で使われる食材の1年間の量の中の種類を把握して、その種類で供給できるものは供給体制をつくっていくとか、より地元のものを子供たちに食べてもらえるような調査も必要なのかなと思いました。その他としては、給食を通じて子供が地域や社会を知ることになると思います。地元食材の生産現場、種苗から成長して収穫したもの、仕入れた食材がさらに卸売業者から給食調理場に運ばれ、そして、給食調理場での献立の作成や仕込み、処理、調理、配送、児童の給食、片づけ、残した給食の処理まで、流通と経済活動や地元食材の生産現場の見学も含めて、一連の循環サイクルを子供たちが学びの教材として学ぶことはさらに地域の理解を深める食育になるのかなということで、身近なところでそういうものをテーマにして今後の食育の展開をされたらなと思いました。

○前田智永委員長 松森委員。

○松森潤平委員 まず、比和小学校、比和中学校、板橋小学校のことですが、國利副委員長と岡野委員も言われたとおり、小規模校における教育環境というか、人数が少なく、学習という部分では強い教育ができるということはありますが、複式学級といった学校運営の先生の問題であったり、小規模校に対して先生が多いということが課題かなと思いました。板橋小学校については、峰田小学校と

統合されて人数が増えて、体育館のキャパシティの問題、少し狭く感じるという校長の話もありました。参考になった点は、比和小学校と比和中学校に関しては地域との関わりがすごくあるということで、地域密着型の学校として地元の伝統行事などを学校教育に取り入れることも言われていたかと思えます。もう1つ課題として、部活動では、専門の顧問がいなくて、地元のクラブチームに通っている生徒もいるということ。文化部については地元の方と交流しながら行っていると言われていたかと思えます。板橋小学校については、生徒数が増えて合唱コンクールがよくなったとか、学校の生徒数も適正規模になってきているという話があったり、特別支援学級の生徒が増えて学校の先生が人材不足だということも言われていたかと思えます。今後、視察をしてどのようにつなげていくのかという点については、比和中学校では部活動をしているけれども基本的にはクラブチームに行かせているということがあったので、比和中学校がされているようなことをモデルケースとして庄原市全体でできるような機運を高めていくことを考えていきたいなと思いました。続いて、庄原の学校給食調理場についてですが、課題としては、1日に1,200食をつくれるということで、人員が15名程度だったかと思えます。8時から11時までの限られた時間でつけないといけないという話だったので、調理員の肉体的疲労軽減であったり、本当に配達ルートが最適なのかとか、調理器具の最新化とか、そういったところに主な課題があるのではないかと思います。参考になった事例としては、ジビエの工場が新設されたということで、地域の有害鳥獣の肉が手に入りやすくなったと言われていました。それを食育につなげておられて、何で今ジビエを食べるのかということが食育の観点では非常に実施できているのでよかったかなと思います。そのほかに、週5で完全米飯の給食、地元の米を使われていたり、地元の農家やJAと連携して野菜を確保されているところは、地元の農業にも大きく寄与しているのかなと思います。あとは、何より、現場の栄養士の方が日々献立メニューを考えるのはすごく大変だろうなと思いました。ただ、栄養士の方、課長、調理スタッフも含めて、皆さんが安心しておいしい給食を届けたいという思いを持たれているからこそ成り立っている給食調理場だなと思いましたので、非常に安心したというか、誇れる給食なのではないかと思います。視察をどのように生かしていくのかというところは、栄養士の献立とかを給食だよりにして家とかに届けられているとは思いますが、農家の方が「私たちがつくっています」ということをポスターなどを通じて、生徒はもちろんですが保護者の方にも伝えて、郷土愛をさらに深めるような努力というか、そういうところにつなげていってほしいなと思いました。

○前田智永委員長 青山委員。

○青山学委員 比和小学校・中学校、板橋小学校の視察の参考になった点と問題点と感じた事項からですが、私自身の話になりますが、出身の小学校在そんなに多いほうではありませんでした。ただ、ぎりぎり複式ではないところで小学校を出て、中学校はかなりの人数の庄原中学校に通って、高校、大学と行かせてもらった中で、今回、正直に言って比和小学校と中学校の授業風景は、表現が適切かどうか分かりませんが、びっくりしました。マンツーマンであったり、複式であってもすごく少人数の複式で、最初見たときにすごくびっくりしたのが本当の感想です。その後、先生方から話を聞くと、熱意がすごく感じられて、それも一人一人といい意味で距離が近い、マンツーマンで、その子に合った何かを日々考えられているのではないかと私は感じました。そして、先生方が言われた、保護者との連携が取りやすいということがすごく重要なのではないかなと。子供の状態や問題点、その日の状況なども連携がすごく取りやすいと言われたので、それは少人数ならではのすごくいい点だと思う反

面、信頼関係がもし築けなかった場合、複式に関しては、単純計算で出せるものではありませんが、先生としては、1人が2つ見るということは2倍近くのものになる、準備も2倍かかる、ただし、質は落としてはいけないという形になると思いますので、岡野委員も言われたとおり、複式の研修の充実であるとか、そういったところもこれから問題点になってくるのではないかと思います。ですから、問題点としては、小規模校だけの話にはなりますが、教員の負担が大きくなっていくのではないかと思います。給食の話になりますが、私も学校給食を小学校ぶりに口にして、感想としてはすごくおいしかった。全然温かくない、出来たてで熱いものをすぐに食べたわけではありませんが、少し冷めていてもすごくおいしかった。私が学生の頃に広島から出てすごく思ったことが、庄原は御飯がすごくおいしかったのだなど、実家に帰っても思ったし、今回給食を食べても思いました。すごく質の高い学校給食を庄原市はずっと続けてきていたのだなど遅まきながら実感しました。その部分で、保護者にも庄原市の給食はすごくいいという実感をもっと持たせないといけないなど。子供にも持たせたいのですが、子供は今のこれが普通だと思って育って初めて知ってくるのではないかと思います。栄養士の方もアレルギーとかをすごく細かく考えたり、メニューもすごく考えたりされていますが、これを庄原市の給食はよかったという過去形にするのではなく、庄原市の給食はいいということをずっと継承させるために、このすごく頑張っておられることを途絶えさせてはいけないなど。私の子供たちが年を取っても給食はおいしいと思ってもらえるような形を関係者としっかり話をして、お互いがお互いにしっかりと納得のいくいいものができるように連携をしっかり取っていかないといけないなど改めて実感しました。

○前田智永委員長 近藤委員。

○近藤久子委員 皆さんが言われたこととダブリも多くございます。それで、板橋小学校は大規模校ではありません。比和小学校、比和中学校も管理職の方に対応していただいたので、その言葉に偽りは無いと思っています。その中で、メリットとデメリットを話されたと思います。そのままの言葉です。比和小学校が26名で、個別指導はしやすいと。小さいところならではの、皆さんが言われたように地域力に支えられて、実体験のよさがここはあるのだと。ただし、デメリットとしては、考え方や価値観が広がりにくい。核になる児童がいない学年は学習面・生活面において指導の難しさがあると。学校運営に関して、ニーズが少ないことは予算面にも影響してくるのですと。比和中学校ではこういうことを言われていたと思います。メリットは、個別の学力のほか、サポートができやすい、体験学習が本当に可能なのですと。デメリットとしては、多様な同級生と触れ合えない、クラブ活動は外部のスポーツ少年団等に入部の生徒もしていると。生徒数によっては教頭や養護教員の配置がなくなることです。ということは、私たちが何人までいいと言っても、学校の体制として養護教諭がいなくなる。教頭も担任を持ちなさいから教頭は要らないでしょうということになる。そういう教職員の体制づくりについてもしっかりと頭に入れておかないと、人数だけでということにはならないのではないかと思います。板橋小学校は、最初は峰田小学校の保護者から子供の戸惑いなどの声があって、そのときに家庭訪問もしたけれども、2学期以降はクレームが全くないということで、再配置に関しては非常によかったなと思います。20人から30人のクラスは班が分けやすい、統合して困ったことは今のところないと言われていました。学校では学力の向上とともに非認知能力、コミュニケーション能力を身につけることが求められているのですと、1クラスに一定の児童数は必要ではないかと自分は思うというのが板橋小学校の校長の言葉です。それぞれの校長であれ教頭であれ、自分自身の学校

を悪く言うことは全くないし、言うてはいけないし、それぞれが一生懸命頑張られていることは私たちも受け止めますが、最初に言いましたように、教職員の体制づくりの面で課題が出てくるのではないかと思います。比和小学校が26人、比和中学校が10人、再配置で峰田小学校と統合した板橋小学校が138人です。令和8年度は6校が複式をするようになりますが、あと10年たったらどうなるのかと、このままなら令和19年度には比和中学校は5人、高野中学校は8人、西城中学校でさえ19人、総領中学校は10人となってしまいます。学校運営そのものも大変なのです。今私たちは本当に、どのような結論をまとめて出すにしても、放っておけるような状況ではないということは皆さんもお考えになっていると思います。学校の規模によらずに支援を要する子供たち、知的であったり情緒であったり肢体不自由がありますが、その子供たちが増加傾向にあるのだと。適切な教育を受ける対策というのは教員の加配だと思いますが、そういうところにも視野を広げていく必要があるかなど。自分の子供がそうだったらどうなのかというところだと思います。今から児童生徒数は増えないと思います。その次の学校給食のことです。皆さんも言われたようにおいしかったです。スライドを見ると、本当に衛生面に気を使っていたら、自分の爪ブラシがあったり、何十種類もエプロンが変わったり、ここまで気を使わないといけないのかと。気を使わなければいけない世の中になってきました。うずら卵を喉に詰まらせて死んだ子供がいるわけですから。アナフィラキシーショックの疑いで亡くなる事故が発生したときに、文部科学省もアレルギー対応について大変なことをするわけです。これまでも関係機関がそれぞれ主体的に取り組むべき決定をされて、本市においても、5校の子供たちの中に30名も対象者がいます。それは、いつかあったときに保育所から始まって、トレーの色を変えるとか、何重にもチェックすることになっています。今からも続けていかなければいけない時代になってきました。菌を増やさないために真空冷却や、専用の冷蔵庫をつくったり、85度から90度で90秒以上の十分な加熱をすることで、徹底した管理、衛生面に気を使っていたら、30名の対象者がいるということは、給食を提供する側としては本当に気持ちが収まらない。何事も起こらないことを願いながら衛生面にも気を使っておられると思います。それで、地産地消が今ずっと言われていますが、広島県内で採れたものならいいというものもあるし、庄原市はにんじんが育ちにくいと言われてました。ある程度同じ大きさで同じような味でというところが、難しいのは、白菜もキャベツも1枚ずつ剥がして洗浄されていましたから、虫が少しでも入っていたらちょっとねということがあるのだと思います。だから、衛生面には本当に徹底的に気を使っていたら、よく分かりました。先ほども言われたように、教育長から、どうも食べる姿勢の悪い子がいると。学校のしつけもあるのだろうけれども、これは家庭教育のしつけであって、大人になってもスプーンでこうして食べる人とか、自分が恥をかくのですが、ただ、給食のときにはほかの児童生徒を見て自分の食べ方がおかしいと思うくらいの気持ちを持たないといけないなど。東城町で給食が問題になったときに、親の愛情弁当を作れというのが町議会で話題になったときがあります。誰がつくるのか。お母さんも働いている。愛情弁当という使い方をされたのです。それからだんだんと業者の弁当になって、また給食に戻っていったのですが、給食でないと同じものを同じ時間に同じ気持ちで食べることができないのです。弁当だったら隠して食べる子が絶対に出てくる。そういう面で見ると、みんなで安心して同じ時間に温かくておいしいものを食べられる時間というのは子育てにとっても重要な時間ではないかと思ったり、本委員会でも今回の共同調理場の視察が本当に有意義であったということをしかりと記して、さらに、いろいろなアレルギーを持っている子供に対しては、今から減ることはない

と思いますが、よりしっかりした対策を取って、これだけされているのだから余計に事故がないようにしていただきたいと思います。

○前田智永委員長 皆さんにいろいろと言っていました、大枠では皆さん大体同じような思いをお持ちの中で、今言っていてさらに共有ができた部分もあるかなと感じました。比和小学校、比和中学校、板橋小学校には、2月16日の、年度終わりに近づいて非常に忙しい中対応していただきました。板橋小学校に行ったときに、新1年生になる保育所の子が来て1年生と一緒に交流している風景をちょうど見ることができて、このように地域と、保育所と関わってこられているのだなと感じました。それから、比和小学校・中学校については、校長がずっと一緒について細かく話をしてくださって、本当に愛情いっぱいだなと感じましたし、先ほどの意見の中にもありましたが、1人のクラスがあったということで、私たちも、いいのだろうか悪いのだろうかという目も含めて、心配な部分と愛情を感じる部分という両極を見ながら、本市の子供たちの教育条件としてどのような体制が本当に必要なのかなということで非常に困惑や苦慮もしながら管内視察をさせていただいたと思います。その中で、教育民生常任委員会として1つの結論を出すというところには至りませんので、様々、そういう御意見を伺いながら、現場を見ながら、どうしたらいいのかという、先ほど近藤委員からもありましたように、校長の御意見は本心だと思います。クラブ活動についても、メリットとデメリットがあってどうなのだろうか。でも、その中でできる限りのことはしたいと言われていましたし、そこをどのようにしていくのかは教育委員会も関わっていくところだと思うので、本常任委員会も関わりながら一緒に調査していきたいと思います。私がこの1日の中で一番印象に残ったのが、学校の在り方について、子供たち、保護者、教員、地域が一緒になって話し合いをする場が学校ではつくれないと言われたのが非常に印象的でした。確かにそうですよね。先生方は教育をすることが仕事で、とにかく子供たちの学力向上であったり、取組であったり、人間関係をつくることに精いっぱいなので、いろいろと予算のことや教員配置についても苦慮されながらも、とにかく子供たちの教育のために尽力されている中で、その話し合いの場を持つことは決してできないと思いました。それをどのようにつくっていくのかは本常任委員会も関わりながらできることなのかなと感じたので、どういった学校のあり方検討会がいいのかは、提言も含めてしっかりと関わって調査していけたらなと個人的に思いました。それから、給食調理場ですが、皆さんも言われていたように非常に御尽力されている様子が分かりました。本当にこれは見るのと見ないのとでは全く違うと思います。これを一番見てほしいのは、岡野委員も言われた子供たちです。私たちは3月4日に行かせていただきましたが、お願いをする段階で、子供たちは授業の中で見学をしていると。調理場を見て、自分たちの給食はどうなのか、どのような人たちがつくっているのかという仕組みをスライドも見ながら勉強されていると。それを私たちにも同じように示していただきたいということで工程を組ませていただきました。ですので、当日していただいたことは、本当に子供たちに知ってもらっていることを一緒に共有させていただきました。こういう学習を子供たちができることは本当に都会の学校ではできないことで、庄原だからできることだなと感じましたし、その中で何が足りないかと思ったときに、家庭かなど。保護者、家庭に対してこのことをどれだけお伝えできるのかというのは私たちがしないといけないことなのかなと感じました。先ほど近藤委員も言われましたが、食事マナー、箸の持ち方や姿勢とか、朝きちんと起きていないと昼御飯をきちんと食べれないということで、朝御飯、昼御飯、夜御飯を食べて、寝る時間と起きる時間という生活習慣が非常に大事なのだと同席された教育長も言うておられました。

そこをどれだけ家庭に伝えられるのかというのは、個人的な思いですが、教育委員会で全国大会の壮行式をユーチューブ配信されています。ああいったものをうまく使って保護者や子供たちが見る機会を得られないものかなと。教員にとっても、全員が全員見れるものではないと思います。その学年の担当にならないとあそこには行けないと思うので、誰でもどこでも見れる仕組みをつくるのも1つの方法かなと個人的には思いました。あとは皆様に言っていただいたので、またこちらでまとめさせていただきます。その他、この管内視察について何か、今後どうしたいとか、これについてはこういうのがいいのではないかとといったことがあればお伺いします。國利副委員長。

○國利知史副委員長 提案というか、岡野委員が言われた、食材をつくることから、収穫して、収穫の後に集荷があつて、納品があつて、調理して給食になるという一連の工程が、今、前田委員長が言われたような見える化ができたらもっと、食育もそうですが、地域の産業であつたりとか、そういうことを知れる機会でもあるので、例えば、今回とは全く別件ですが、本物の美術に触れる授業でバスを貸し切っていくとかあつたではないですか。そういう感じで市内の生産者の方からどのようなルートをたどって給食になっているのかを見れるような、何かそういう授業があつてもいいのかなと思いました。これは提案というか、今のところどうなるということではありませんが、そういうものがあつてもいいのかなと思いました。近藤委員。

○近藤久子委員 再配置を検討されるのですが、例えば、このくらいの規模の子供たちをここに集めるというのはいいけれども、集めた学校が小さくなったときにここに移動せよというのは非常に難しく、最初の段階では、総領小学校も比和小学校も再配置は最初から考えないほうがいいのかという意見が出ていました。ところがそこがだんだん小規模化していくと、どのような再配置ができるのかなと。先ほど言いましたようにメリットもデメリットもありますが、極限の人数はあると思います。中学校は1教科1担任ですから。今、教員不足の中で、配置は無理ですよと言われたときにとんでもない話になるので、その見極めをどこまで、小学校1年生は1時間以上スクールバスに乗って移動することはあつてはならないと文部科学省が言っていますから、どうなるのかなと思うわけです。バスの拠点まで、今ある小学校まで出てくる子供たちがどのくらいの距離来ているのかなと。中学校の場合、寮があるのは東城中学校だけです。比和から東城へ行けと言うわけにはいかないのに、子供たちが減ってくる中で、どこでどのような教育を受けさせるのがいいのかというのが大きな課題になってくるのではないかと思います。これほど減り続けると、お手上げ状態のときが来ると思います。学校のあり方検討会を行っても、さらに5年後、10年後、子供たちの生まれている人数が分かっているのならば、先ほど人数を言いましたように、何年後に中学生は何人ですともう既に出ているわけですから。だから非常に厳しいけれども、皆さんが言われたように、どのような人数であつても子供たちにとっていい教育を受けさせるための方策を考えないといけないのが、私たちであつたり、今の教育委員会であつたり、親であつたり、地域であつたりするのではないかと思います。

○前田智永委員長 青山委員。

○青山学委員 少し話を戻して視察の件で、先ほど別々に話させてもらいましたが、先ほど近藤委員も言われたとおり、ほかの人の箸の持ち方とか、食べる姿勢とか、そういうことも踏まえた勉強だと思います。ですから、食事はいろいろな人と食べたほうがいい。提案というわけではありませんが、調理場の分ですごく考えられていてメニューもすごいのですが、突拍子がなさ過ぎるかもしれませんけれども、骨がある魚をあえて出して食べてみる教育をするとか、そういう視点で。それだと時間

内に食べられない子が出てくるかもしれませんが、給食で骨がある魚を出して、全然食べられなかった、汚かったという子もいるし、私が小学生のときには同じクラスの子がサバをすごくきれいに食べていました。それを見て、こういう食べ方があるのだとすごく勉強になったのです。家ならそこまで、親も見えていたのでしょうかけれども、同級生の子があれだけきれいに食べるのだから食べ方を教えてくれと父親に言ったことがあるので、給食ではなく魚を食べる骨の取り方講座でもいいかもしれませんが、給食でもそういった面で教育の環境として何かできるのではないかと今回の視察で思いました。先ほど付け加えられなかったので発言させていただきます。

○前田智永委員長 他にありますか。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長 では、管内視察のまとめについてはこの程度で収めさせていただいて、またこちらでまとめさせていただきます。

2 所管事務調査及び閉会中の継続調査について

○前田智永委員長 それでは、所管事務調査及び閉会中の継続調査ということで、まず教育条件整備について、この先どうすればいいか、もし皆様から御提案があればお伺いします。松森委員。

○松森潤平委員 提案というか思いというか、先月の予算審査分科会で教育指導課と生涯学習課から中学校の部活、クラブ活動の地域移行について、非常に課題があり、国がどのように動いてこられるのか分からないという話があって、たくさん課題があってどのように進めていいか分からないということもあったかなと思います。私も個人的に中学校の部活の在り方についていろいろ調べる中で、いろいろなところに視察に行くのもいいのですが、まずは一旦、庄原市内にどのような課題があるかを調べて、いろいろな人から、先生から意見を聞く、保護者から意見を聞く、指導者から意見を聞く。どこまでできるかは分かりませんが、そういった機会を設けながら、全国には先進地があると思います。そういったところにも行けるような感じで進めていきたいなと思いますので提案します。

○前田智永委員長 教育に関してというざっくりとした感じですか。松森委員。

○松森潤平委員 教育に関してというよりは、今後、中学校の部活動がどうなるか分からないという中で、生徒自身が不安に思っていること、保護者自身が不安に思っていること、指導者の方も、地域移行していくということで、全員がお互いに疑問に思っているというか、どうなっていくのだろうかという不安がきつとあると思います。我々もそういったところを調べながら、国の動向も注視しながら調べていきたいというのが私の思いです。

○前田智永委員長 部活動についてですね。比和中学校の校長も言われていました。土日はクラブチームに行く生徒がほとんどで、それぞれ希望するクラブチームには入っているけれども、野球部でキャッチボールができるかといえば難しい状況にあって、今後は全体でいろいろな、総合的な部活という形であったり、文化芸術のクラブも地域の方の協力を得ながら行ってもいいのかなと思うという御発言もあったかと思います。そういった流れも学校によって、もしくは校長によって違うというところが非常に大きいのかなとも感じますし、地域にどのような方がいるのかにもよると思いますが、人数が少なくなると難しくなった場合にどのような方法があるのかという調査は必要だと思います。そういったところも視野に入れながら、もし今後、それぞれの調査の中で様々な方の御意見を伺って、こ

うといういいところがあるから行ってみようということがあれば、そういう機会も早い段階で皆さんと話し合いをしていかなければならないかなと思います。他にありませんか。岡野委員。

○岡野茂委員 教育条件整備ということで、教育の中身もですが、先ほど松森委員が言われた子供たちのクラブ活動の保障というか、文化にしろスポーツにしろ、この庄原でどのように確保していくのか、保障していくのかということは非常に大事なことだろうなと思います。令和8年度に学校のあり方検討会を教育委員会がスタートするとのことですが、どの範囲を考えておられるのかも不明です。地域の指導者の確保もしないといけないということを考えると、生涯学習やスポーツの指導者との意見交換とか、先ほど近藤委員が言われたように、もう庄原市の子供の数は分かっているわけです。そういう中で、クラブ活動を個別で考えることはもう不可能なので、庄原市全体の子供たちが参加できるような仕組みが必要なのかなという感じもします。では輸送をどのようにするのかという問題もありますが、基本的な流れとすると、庄原市全体の子供たちが土日を中心にスポーツができるような活動なのかなと。その辺をいろいろ調べたりして、できるのかできないのか考えてみたいとは思いますが。

○前田智永委員長 他にありませんか。よろしいですか。では、この程度で収めさせていただきます。今皆さんで共有した部分も含めて、さらに調査を進めながら、閉会中の調査についても、委員会があと1年と少しとなっています。3つの項目についてそれぞれ報告の着地点をそれなりに定めていかなければなりませんので、いつ頃までにとというのは早めに設定していきながら皆さんにお諮りしたいと思います。また情報共有、情報調査、いろいろよろしく願いいたします。次に、男女共同参画について何かありますか。よろしいですか。以前、近藤委員から、それぞれが情報を持ち寄って勉強会をするのもよいのではないかと御提案があったかと思っておりますので、そういった方向で事務局とも話をしながら進めていますが、そういった形でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長 それでは、情報等をお持ちの方がおられれば、また個別でもいいので提出していただければありがたいです。次に、健康寿命の延伸についてです。以前、今定例会が終わった後にも視察に向けて動いてみないかという意見があったかと思います。特に広島県の動きであるとか、熊野町がたまたま近い距離にありまして、先進地として全国でも注目を集める地域ですので、そういった取組を学ぼうということがあったかと思っております。これについては、6月定例会までに設定を、事務局とも調整を図りながらしていきたいと思っておりますので、ご理解いただいてもよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長 では、そのような方向で進めたいと思います。

3 その他

○前田智永委員長 その他の項目をお持ちの方がおられれば、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○前田智永委員長 ないようですので、本日の教育民生常任委員会を閉会いたします。

午後2時30分 散 会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

教育民生常任委員会

委員長